

平成 29 年度 高槻中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2 中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)としての教育活動およびコース制の充実

指定4年目のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)は「先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、指定2年目のSGH(スーパーグローバルハイスクール)は「医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入4年目となり、中3以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンス)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後はよりコースの特性に応じた教育プログラムの充実を図っていく。さらに、中1・中2は中3進級時にコースが分かれることから、生徒にとっては、早い段階から目的意識をもって学習に取り組むこと、明確な進路意識を持つことが求められるため、それに対応した指導とガイダンスを充実させる。

② School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

③ 高大連携の教育プログラムの充実

本校は、大阪医科薬科大学との法人統合、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)の指定というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

④ 「探求型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探求型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、中教審の答申、それを踏まえた2020年の大学入試改革、次期学習指導要領においてもキーワードとなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として [知識・技能]、[思考力・判断力・表現力]、[学びに向かう力・メタ認知] が挙げられている。自己評価では、思考力を重視した問題解決的な学習を行っているという項目の自己評価が79%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、その検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録する学修ポートフォリオ『My Career Notebook』を活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、2020年以降に大学入試を迎える中学3年生以下の学年では年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っている。

⑤ 高い学力が確かに身につく指導とベンチマーク達成のための成果の検証

本校は2017年までに到達すべき進学および学習到達度の数値目標として下記のベンチマークを掲げている。これを達成するため、進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

【ベンチマーク】

2017年度迄に一(A)難関国立10大学 合格者130名 (B)国公立医学部+大阪医大 合格者40名 (C)中学卒業時の英語力 50%が英検2級

⑥ 校舎建設および将来構想

自己評価では、新高校校舎完成を迎え、十分な教育を行うための施設・設備が整っているという項目の評価が改善された(項目38がH26年度34%→H27年度50%→H28年度57%)。今年度は、I期工事が終了し、II期工事で図書館・講堂・アクティブラーニング commons の建設に入る。さらざキャンパス全体の中長期的なレイアウトを視野に入れつつ、諸施設の充実と刷新を図っていく。

⑦ 徳育教育の充実

自己評価では、生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道徳教育を継続的に行っているという項目の評価が改善された(項目26がH27年度59%→H28年度68%)。共学初年度を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切にする指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価は依然として低いので(項目40がH26年度49%→H27年度48%→H28年度48%)、今年度は抜本的な改善を図っていききたい。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道徳教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していききたい。

⑧ 社会貢献活動としてのボランティアの推進

一昨年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

⑨ 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

自己評価では、校内研修は教育実践に役立つような内容になっているという項目の評価が大きく改善した(項目43がH26年度37%→H27年度45%→H28年度56%)。今後とも、教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていききたい。また、今年度も深い学びを促すアクティブラーニングを推進していくための研修と、カリキュラムマネジメントに関する研修を実施し、教育活動の深化、連関性、協働性を高める取り組みを実践していききたい。

⑩ ICT利活用教育の推進

今後ますます進化を遂げるであろう高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>〔保護者〕（ ）内は（中学保護者・高校保護者）</p> <p>アンケートの各項目に対し、中学、高校ともにほぼ同じ評価数値であった。「教育方針をわかりやすく伝えている」（88%・86%）、「子供の能力や努力を適性・公平に評価している」（78%・71%）、「学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きしている」（83%・84%）、「学校行事に積極的に参加している」（84%・80%）や「生活指導の方針に共感できる」（77%・74%）、「進路指導」（74%・77%）、「進路指導情報の提供」（89%・87%）、「子供の間違っただ行動を厳しく指導してくれる」（87%・88%）、「いじめや暴力のない学校づくり」（88%・86%）、「社会のルールを守る態度を育てようとしている」（89%・85%）、「人権教育」（79%・84%）、「学校安全対策」（87%・88%）、「学習環境面においてほぼ満足できる」（86%・85%）、「プライバシーの保護」（92%・92%）などについて、高い肯定的評価を得ている。一方、「授業が楽しくわかりやすいと言っている」（64%・64%）、「学習の内容や進度などを懇談や学年通信やシラバスなどによってよく知ることができる」（63%・67%）、「到達度に応じた学習指導を行なっている」（67%・70%）と低かった。学校改革の内容については一定のご理解をいただいているので、学習内容・状況の発信を課題とし、また、学校生活に更なる安心感を高めていただけるよう、保護者との信頼関係の構築に努めたい。</p> <p>〔生徒〕（ ）内は（1年・2年・3年・全体）の数値</p> <p>中学生のアンケート結果は、2項目を除いて全て昨年度比でみると好転している。特に、「学校生活は充実している」（91%・85%・77%全体 85%）、「学校の授業は理解できていますか」（91%・87%・84%全体 87%）と高い数値ではあるが、学年進行によって数字が下がっていることに注視し、対策を検討したい。また、「生活指導は適切か」（67%・64%・48%全体 61%）、「生活指導の方針に共感できるか」（56%・59%・45%全体 54%）、「生徒の活動を活性化しよう工夫している」（70%・62%・44%全体 60%）という数値が出ている。『身につけたい10の資質』をもとに、次世代の人材育成を目指した指導をしていくが、生徒が理解を深めて自律的に行動できるよう繰り返し呼びかけるとともに、自主性を育てることを課題として取り組んでいく。</p> <p>高校生のアンケート結果は、全般的に昨年度比でマイナスであった。「学校生活は充実していると思いますか」（72%・74%・66%・全体 71%）ではあるが、全体的に低くなっている。「生活指導の方針に共感できる」（44%・56%・40%全体 47%）、「学校は生徒の活動を活性化しよう工夫している」（35%・51%・36%全体 40%）、「進路指導の方針が明確に示されていると思う」（48%・55%・44%・全体 49%）については特に低い。これらの結果には、学校教育改革の動きや校舎改築に伴う校地利用の影響、また多感な時期に向き合う姿勢など様々な要因が考えられる。教職員一同、生徒の状況を共有し、理念や方針を生徒に伝え、理解を得るとともに、生徒一人ひとりの学校生活が充実したものになるよう努めたい。</p> <p>〔教職員〕</p> <p>教育内容の充実・改善に引き続き取り組む中で、「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある」（81%）の評価が年々高くなっている。また、「各教科において、基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行なっている」（81%）。「生徒の問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている」（86%）、「教育相談体制が整備されている」（84%）、「生徒指導において、家庭との緊密な連携ができて」（92%）、「などの項目が高くなっている。また、清掃活動については、15ポイント改善された。</p> <p>一方、校務運営や情報共有、クラブの活性化については、教職員の評価が低くなっているため、理念を共有して、よりよい教育活動を行い、教職員が充実感を持てるよう、カリキュラム・マネジメントを推進していきたい。</p> <p>〔まとめ〕</p> <p>今後も継続して、教育改革を進めて行くために、今回のアンケート結果を踏まえ、PDCAサイクルに載せて検証し、課題に対して真摯に改善に取り組む。生徒・保護者の安心感と満足度の向上のため、学校としての理念や指導方針を明確にし、今まで以上に、生徒・保護者に積極的に情報を公開したい。教職員については、一致団結して教育活動に取り組めるよう、方針や目的の共有を図るとともに、指導の結果についても評価を行い、改善を図っていききたい。全ての教職員が、学校の特色を創り上げているという自覚と責任を持ち、よりよい教育活動が展開できるようマネジメントを進めていきたい。</p>	<p>〔自己診断結果に対する評価及び意見〕</p> <p>□当校を、「高槻に行きたい」、「高槻に来てよかった」と思わせる学校にするため、日々、当校の教育のあり方について、具体的に検討し、実践される校長先生はじめ幹部の先生方の真摯な姿勢に、大多数の保護者は、心より感謝しています。</p> <p>□目指すべき学校像「次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校」の実現に、保護者会としても、全面的に協力して参りたいと考えています。保護者としては、学校に期待し、実際にお任せすることも多いと思いますが、教育の両輪は、学校と家庭にあることは疑いようのないことですので、学校と保護者会が協力して、更に強力なる生徒への指導が望まれます。</p> <p>□学校評価アンケートに関して</p> <p>（1）保護者アンケートにおいて、中高ともに、過半数の項目でプラス評価が80%を超えていること自体、端的に、保護者の満足度が高いことのあらわれと判断できます。その背景には、当校が、伝統に胡坐をかかなく、時代の変化に伴う教育の在り方を分析し、将来を見据えた学校改革に積極的に取り組んでいることについて、保護者が高く評価していることがあると判断できます。</p> <p>他方、著しく低いというわけではありませんが、中学3年生は中学平均を、高校1年生は高校平均を下回っている項目が多数あることが気になります。これらの学年は、中高一貫教育において、丁度真ん中にあたる学年ですが、中学生活にも慣れ、また、大学受験までにはもう少し時間があるという学年にもあたり、その前後の学年に比べ、学校と生徒のかかわりが、やや緊張感を欠いていないか、その原因について具体的な分析が必要と思われます。</p> <p>（2）保護者アンケート項目4「学習の内容や進度などを、懇談や学年通信やシラバスなどによってよくすることができますか。」、同5「学校は、到達度に応じた学習指導を行っていますか。」においては、他項目に比べると必ずしもプラス評価が高いとはいえません。保護者と思春期を迎える生徒とのコミュニケーションの難しさを背景に、保護者としては、学年を超えて、具体的な学習状況を知るきっかけを学校側に求めていることをうかがい知ることができます。</p> <p>（3）保護者アンケート23に関連して、保護者から、休校等の連絡について、既に家を出た後の時間になってしまうこともあるので、学校からの公式な連絡を可能な限り早くしていただきたいと思ひます。</p> <p>（4）昨年度までは、高校・保護者アンケート項目24「学習環境面における学校の施設・設備」の評価が、他項目に比べても著しく低くなっていました。これは、具体的には、新校舎Ⅰ期工事（南館・高校校舎）に伴う騒音、及び、これに付随する教室内の温度管理、通気性が問題になっていたようです。しかし、Ⅰ期工事は平成29年3月に竣工しました。また、Ⅱ期工事（図書館・講堂）が引き続き行われていますが、アンケートでは、新校舎供用に伴うプラス評価はあれど、Ⅱ期工事に伴うマイナス評価は見られないようです。当校の教育は、ソフト面だけでなく、それを支えるハード面においても、充実が図られているといえます。ただ、毎年のように改善要望のでている「校庭の人工芝化」ですが、多くの私立校において、全面人工芝が導入されており、今の時代、必須なことと考えますので、早期実現を期待したいところです。共学化に伴い、女子生徒も校庭を利用します。見栄えによる当校のイメージ向上や衛生面からも人工芝化の早期実現が期待されます。さらに、当校にはナイター設備はありません。冬場は、午後5時近くになると、暗くなり、校庭を利用するクラブ活動をするのに支障が生じます。そのため、ナイター設備の導入も検討課題にあげてもよいと思ひます。保護者アンケート項目18「学校でのクラブ活動は活発だと思いますか。」のプラス評価が、例年、他項目に比べて低くなっていますが、人工芝化・ナイター設備がないことの影響がないとはいえないと思われます。クラブ活動は運動系に限られませんが、当校が文武両道を実践し、さらに魅力を増すためには、これらの整備も期待されることです。</p> <p>（5）食堂の混雑問題について、生徒からよく耳にする問題です。共学化に伴い、食堂の利用形態も多様化していますが、弁当持参の生徒だけが集まって食堂で食事をするにより、本来の食堂利用者（注文する生徒）を含む生徒が食事をするスペースが奪われてしまうという事態が生じているようです。優先座席の設定もされているようですが、この点に関する指導も継続して行う必要があると思われます。</p> <p>（6）平成29年度までのベンチマークは不達成であったとのことですが、学校としての総括、新たなベンチマークの設定、必達のために何をすべきかについて、多くの保護者が注目しています。</p> <p>□まとめ</p> <p>当校の、単に偏差値の高い大学の合格実績を上げることを目標にするのではなく、スクールミッションである「Developing Future Leaders With A Global Mindset」を実践する中で、合格実績を上げるという姿勢に、学校で、青年期にある生徒に、社会で活躍できる素養を身につけてもらうことを期待する保護者は大いに共鳴するところです。特に、スクールミッション達成のために、生徒に「本物」を体験させることに重きを置く当校の姿勢は、他行の追従を許さないとはいえるのではないのでしょうか。保護者会としては、当校のさらなる教育内容・設備の発展に期待しつつ、当校の次代を担う人物育成をサポートして参ります。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
おひこコース制の充実 ⑤SSH, SGH, SGI, SGCの教育活動	(1) SSHの教育活動の充実 (2) SGHに準じた教育活動の充実 (3) コース制に伴う教育活動の充実 (4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上 (5) コース選択に関するガイダンスの実施	(1) 課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加 (2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンラインコース、海外フィールドワーク(パラオ) (3) 探究活動の充実、コース別研修の企画・実施 (4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアデザイン進路講演会「ようこそ先輩」(中1、中2)、選択式進路講演会(中3) (5) ア. コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ. 中学の保護者対象学年集会において説明	(1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート (3) 高1、高2生の項目2が80%、項目4が75% (H28年度項目2が高1は79%、高2は70%、項目4が高1は76%、高2は63%) (4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が85% (H28年度81%) イ. 中学生の項目20の肯定的評価が70% (H28年度60%) (5) ア. 中2・中3で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が90%維持 (H28年度91%)	(1) 科学技術・理科・数学に関して興味を持って参加できる、その能力やセンスの向上に役立つ、理系学部の進学に役立つ、志望分野探しに役立つ、課題研究の幅が広がるといった面で肯定的に捉えていた。(○) (2) GAコースの課題研究での経験(獲得した知識・発表や資料作成のスキル・英語の活用)といった項目で参加生徒の満足度が高かった。(○) (3) 項目2の高1が66%、高2が75%であった。課題研究やコースの特長を活かしたプログラムの充実と生徒の満足度を上げていきたい。(×) (4) ア. 中学生の項目4「授業が理解できている」の肯定的評価が、87%と目標に達することができた。(○) イ. 中学生の項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の評価が昨年度60%だったが、65%と改善することができた。学習指導部・進路指導部の指導を一層充実させていきたい。(○) (5) ア. 中2・中3で各一回計画通り実施した(○) イ. 項目1「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」の肯定的評価が88%と90%を維持することができなかった。学年集会などを通して学校の方針をより理解していただくよう努めていきたい。(△)
⑥School Mission ⑥兼読や図書の教育活動の展開	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施とプログラムの充実 イ. ターム留学(カナダ・ブリティッシュコロンビア州、アメリカ・オレゴン州に12月末～3月上旬まで留学) ウ. 特色教育としての英語教育の充実、使える英語を身につけるための英会話の授業(オンライン英会話含む) エ. GTEC CBT セミナー (GAコース) オ. 言語活動の充実 カ. International Young Leaders Advancement Programme (GAコース) キ. コミュニケーション研修(中1) ク. グローバルセミナー ケ. 台湾研修(GAコース) コ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台南第一高級中学、ミンゼンティエ高校:パラオ)との提携と交流行事 サ. 海外サイエンスキャンプ(GSコース) シ. 海外フィールドワーク(GAコース) ス. GLコースのキャリア教育の企画 セ. 次代を担う人物に求められる資質の教育活動を通しての具現化	・各プログラムの実施 ・自己評価において項目23「海外に目を開くことや次世代の世界を担う人物の育成に役立つような取り組みが行われている」の肯定的評価が90% (H28年度85%)	ア・イ. 英国研修40名、米国研修30名、ターム留学13名の参加があった。充実したプログラムで実施することができた。(○) ウ. 中学では英語を週8時間配当し、内3時間は英会話を実施した(中3では2時間のオンライン英会話、1時間の多読を行なった)(○) エ～ク. 計画通り実施した。有意義な研修が行えた。(○) ケ・コ. GAコースの研修旅行において、数年にわたって継続的に訪問している現地の学校があり、交流が深まっている。延平高級中学が来日した際には、本校で歓迎行事を実施した。(○) サ. タイでサイエンスキャンプを実施。現地の大学や高校などで発表や共同実験を行なった。(○) シ. パラオでフィールドワークを実施。現地の高校や行政機関、集落を訪問し調査を行なった。(○) ス. 東京で研修を行ない、経団連、松下政経塾、地元国会議員、東京在住のOBの協力を得て、キャリア意識を高める研修ができた。(○) セ. 学習面では資質・能力の育成を明確にすべく各教科で長期的なルーブリックを作成した。特別活動・学校行事などに関連させ、「身につけたい10の資質」を伸ばさせたい。(○)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">③ 高大連携の教育プログラムの充実</p>	<p>高大連携の教育プログラムの開発</p>	<p>ア. 大阪医科大学…SSH事業への支援、SGH事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室 イ. 大阪薬科大学…サマーサイエンスプログラム ウ. 京都大学…SSH、SGHの活動における連携 エ. 大阪大学…SSH、SGHの活動における連携、公開講座への参加(高2)、グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)との共同研究 オ. 神戸大学国際文化学部…SGHの活動における連携 カ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携 キ. 関西学院大学…SGHの活動における連携 ク. 大阪市立大学…SSH課題研究の指導 ケ. 東京大学…SSH事業における研究室との連携 コ. 北海道大学…SSH事業の北海道研修における連携 サ. 名古屋大学…SSH事業の臨海実習における連携 シ. SSH事業での大学研究室訪問 ス. GAコースにおける海外大学との交流プログラム a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b) ケンブリッジ大学生徒とのリーダーシップ研修 c) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修 セ. GSコースにおける海外大学との交流プログラム a) 海外サイエンスキャンプにおけるクイーンズランド大学、グリフィス大学での研修 b) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修</p>	<p>・各連携事業の実施 ・高1、高2生の項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が75%。 (H28年度高1が71%、高2が64%)</p>	<p>・大阪医科大学、大阪薬科大学との高大連携プログラムをより充実したかたちで実施できた。(◎) ・他大学との連携プログラムについても概ね計画通り実施した。(○) ・スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと連携したスタンフォードe-takatsuki、ケンブリッジ大学生徒とのリーダーシップ研修(YLAP)、台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修を計画通り実施できた。(○) ・GSコースの台湾研修において国立交通大学での研修を実施した。日程が合わず大学訪問は1校であったが、現地中等学校との交流は充実したものとなった。(△) ・他の項目については、プログラムの変更や他に新たなプログラムに取り組んだため、計画を見直した。 ・項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が60%と目標に達しなかったが、研修に実施した高2に限っては70%であった。(×)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">④ 「探求型」学習の充実と 資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>(1) 高校生の「探求型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2) 資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>ア. GSコースにおけるSS課題研究 イ. GAコースにおけるグローバル課題研究 ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング エ. 中学卒業論文 オ. 中1総合学習で行う学びのリテラシー カ. 中2総合学習で行う課題解決型学習 キ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 ク. 学修ポートフォリオ『My Career Notebook』の記入指導と中学1年でのe-ポートフォリオ導入 ケ. 学修インタビュー(中学全学年)</p>	<p>・各教育プログラムの実施 ・自己評価において項目22「現代的な課題やグローバルイシューをあつかった教育活動が行われている」の肯定的評価が75% (H28年度74%)</p>	<p>全ての項目を実施した。 特にGS、GAコースの課題研究においては、ポスター発表などで優秀な成績を収めた。(○) ク. セルフマネージメントプランナーや学修ポートフォリオの記入指導が充実・定着してきた。中1については、二学期よりe-ポートフォリオに移行し、学修成果を蓄積する取り組みがなされた。(○) ケ. 中学全学年で学修インタビューを実施した。一年を振り返り学修成果と次の課題を意識することができた。 ・自己評価の項目22「現代的な課題やグローバルイシューをあつかった教育活動が行われている」の肯定的評価が70%と目標には達しなかったため、全校的な取り組みになるよう改善していきたい。(△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑤ 高い学力が確かに身につく指導と ベンチマーク達成のための成果の検証</p>	<p>2017年度末までにベンチマークを達成するための学習指導の実践 【ベンチマーク】 (A) 難関国立10大学合格者130名 (B) 国公立医学部+大阪医大合格者40名 (C) 中学卒業時の英語力50%が英検2級</p>	<p>(1) ベンチマーク達成と進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア. 各学年が取り組む学力向上策 イ. 模試結果検討会議の実施(中学3学年×年2回) ウ. 各教科に担当者を2名以上おき、京大合格者を増やすための取り組みを実施する (2) 中学段階における学習指導の徹底 ア. セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ. 家庭学習時間2時間以上を徹底する。 (3) 進路指導部主導による学力向上 ア. 模試結果のフィードバックと模試ノートを使った復習。模試における目標の明確化。 (4) 学習指導部主導による学力向上 ア. 日々の学習での基礎基本の徹底 イ. 好ましい学習習慣を身につけるための指導 (5) オンライン教育の有効活用 (6) 大学入試対策放課後講座(アフタースクールアカデミック(AA)講座)の更なる充実と受験対策の強化 (7) 進路意識を向上させるキャリア教育の充実 (8) 高3三学期の受験指導の強化</p>	<p>(1) 各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2) 中学生の評価において「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価がそれぞれ70% (H28年度項目18が66%、項目20が60%) 中学卒業時の英検2級合格率50% (3)(4) 高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が80%(H28年度74%) (5) 中3～高2で実施 (6) 高2高3で実施 (7) 中1、中2、高1で講演会を年1回実施 (8) 二次対策講座の組織的な開設</p>	<p>(1) 各学年で年間計画を立て学年末報告会議でその成果について検証するとともに、模試結果検討会議を中学だけでなく、全学年で年2回実施した。また、本校独自の京大入試分析冊子発行し、全生徒に配布した。(○) (2) 「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の項目が75%で大きく向上したが、「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」は65%で目標に届かなかった。意識の向上が学習への取り組みにつながるよう指導していきたい。(△) (3)(4) 高校生の項目20が66%であった。好ましい学習習慣、その基礎となる生活習慣を身につけることにおいて十分に指導がゆきとどかなかった。日々の取り組みを身のあるものにし学力保証と進路実現を図っていききたい。(×) (5) 主に英会話の授業等で活用することができた。今後いろいろなコンテンツを有効につかえるよう指導していきたい。(○) (6) 高1から高3を対象に実施することができた。今後も更なる充実を図りたい。(○) (7) 各教科で講演会を行ない、特に中学生の項目18は75%と進路意識を向上させることができた。(○) (8) 今年度より卒業式の日程を3月上旬に設定し、センター試験後の受験指導を強化した。(○)</p>

◎校舎建設 および将来構想	校舎建築の推進	図書館・講堂・アクティブラーニング commons の建設 およびさわらぎキャンパスの整備構想	・自己評価において項目39 「施設・設備の拡充は、長期的見通しに立ち計画されている」の肯定的評価が75% (H28年度73%)	自己評価の項目39「施設・設備の拡充は、長期的見通しに立ち計画されている」の肯定的評価が68%であった。第二期工事完成に向け施設・設備の拡充を図るとともに、教職員及び生徒・保護者への周知を図りたい。(△)
◎德育教育の充実	(1) 生活の基本を大切に する指導の徹底 (2) 平和学習を目的 とした修学旅行 の実施 (3) 道徳教育の充実 (4) 人権教育の推進	(1) 生活の基本を大切に する指導の徹底 ア. 服装 ← 「身だしなみ週間」の設定 イ. 挨拶 ウ. 清掃活動 ← 毎日清掃指導 + 週2回の 全校清掃の実施 (2) 平和学習を目的 とした修学旅行 (中3) (3) 中学3年間を通した 系統だった道徳教育 (4) 年間計画に基づく 人権教育 ア. 每学期1回人権LHR の実施 [各学年のテーマ] 中1: 他者を理解し、尊重 する心を持つ 中2: 心身に障害のある 人達の人権を考える 中3: 戦争の歴史を通し て、平和の大切さを学ぶ 高1: 民族問題、人種問 題について理解を深め る 高2: 在日外国人問題 を中心とした人権問題 高3: 生徒の人生や身近 な人の人権について学 ぶ	(1) 生徒の評価において 項目中学11 高校10「学 校は社会のルールや社会 性を身につけるような指 導を十分にしている」の 肯定的評価が中学生・高 校生ともに75% (H28 年度中学72%、高校62%) 自己評価において項目40 「清掃活動が行き届いて いる」の肯定的評価が10% 上昇 (H28年度48%) (2) 系統だった平和学 習の実施 (3) 生徒の評価において 項目26「学校は人権の 大切さについて、十分に 指導している」の肯定的 評価が中学80% (H28 年度73%)。 (4) 高校生の評価にお いて項目26の肯定的評 価が75% (H28年度70%)	(1) 生徒の評価におい て項目中学11 高校10 「学校は社会のルール や社会性を身につける ような指導を十分に している」が、中学72% →75%、高校62%→ 53%と下降した。基本 的なルールをしっかりと 守れるような生活習慣 が身につくよう指導し ていきたい。(△) 自己評価において項目 40「清掃活動が行き届 いている」の肯定的評 価が63%昨年度比で 15%と上昇した。清 掃指導の強化・全校 清掃・大掃除などの 実施が改善につなが ったと思われる。(◎) (2) 事前事後の研修 も含め、充実した平 和学習が実施できた。 (○) (3) 項目26「学校 は人権の大切さにつ いて、十分に指導し ている」の項目が中 学は77%であった。 より系統だった指 導ができるよう改善 に努めたい。(△) (4) 高校生の項目 26の評価が63%で あった。望ましい 人権感覚が身につく よう継続して指導し ていきたい。(△)
◎社会貢献活動 としてのボランティア の推進	ボランティア活動 を行うための体制 作りと活動支援 および活動内容 の充実	(1) ボランティア活動 支援センターの体制 確立 (2) ボランティア委員 会(生徒の組織)の 校外・校内におけ る社会貢献活動 ア. 日本青年赤十字 との連携 イ. 大阪医科大学 との連携 ウ. インターアク トとの連携(地域 連携) エ. 防災プロジェ クト オ. 校内・校外企 画 (3) 生徒募集イベ ントにおける「T- BEST」メンバー のボランティア活 動	(1) 年度末報告 (2) 35名による活 動 ア. 年16回 イ. 年15時間 ウ. 年5回 エ. 年5回 オ. 年5回 (3) 計4回のイベ ントに40名が参 加	(1) ボランティア委 員会への指導・助 言、外部連携機 関との調整・取 りつぎを行なう 体制が十分に確 立された。(◎) (2) ボランティア 委員会に所属す る生徒が45名と 増えつつある。 随時参加の生 徒を含めボラン ティア活動の充 実を図ってい きたい。(○) ア～オにつ いては概ね計 画通り実施で きた。(○) (3) 4回の活 動に登録者74 名が分担して 参加した。(◎)
◎指導力および資 質の向上を図る 教員研修の実施	教員の指導力 および資質の 向上	(1) 研究授業の実 施(年2回) (2) アクティブラ ーニング研修(全 教員+各教科の 推進メンバー を対象としたワ ークショップ) (3) 公開研究会 の実施 (4) 学びあい週 間の活性化(授 業見学とレポ ート提出の義 務化) (5) 英語科教育 顧問による 研修 (6) 国語科教育 顧問による 研修 (7) 教員向け 人権研修会 (8) いじめ防 止教員研修会 (9) 5年経験 者研修 (10) 新人研 修	(1~2) 自己評価 において項目44 「学校内で他の 教員の授業を見 学する機会がよ くある」の肯定 的評価が75% (H28年度69%) (3) 年1回 (4) 年1回 (5) 年4回 (6) 年4回 (7) 年1回 (8) 年1回 (9) 年間を通 じて4項目実 施 (10) 年間を通 じて全15回 ・自己評価にお いて項目43 「校内研修は、 教育実践に役 立つような内 容になっている 」の肯定的評 価が60% (H28年度56%)	(1~2) 自己評価 の項目44「学校 内で他の教員の 授業を見学する 機会がよくある 」が67%であ った。全員が積 極的かつ自主 的に研修に参 加するよう促 したい。(△) (3~10) の研 修を計画通り 実施できた。(○) ・自己評価にお いて項目43「校 内研修は、教育 実践に役立つ ような内容にな っている」が44% であった。研修 が教育実践につ ながるよう内 容の検討と意 識の変化を促 すよう取り組 んでいきたい。 (△)
◎ICT利活用 教育の推進	BYODによる ICT教育の充 実	今年度より中学 全学年で個人 のデバイスを使 ったICT教育 が実施される。 それに伴いICT 利活用教育推 進委員会を中 心としたICT 利活用教育の 推進・環境整 備・指導体制 の構築を図る ア. メディアリ テラシーを含 めた教育体制 の構築(何を 使って、何を させるか) イ. 学習用デ バイスの使用 に関するルー ルの策定 ウ. 校内環 境の整備、シ ステムの構築 エ. ICT利 活用教育推 進委員会とAL 推進チーム との共同によ る教員研修、 生徒支援、広 報活動	・推進委員、中 1学年団を対 象とした教員 研修の実施 ・教員、生徒 のICT利活用 を支援する 体制の確立	・ICT利活用 の教員研修を 実施し整備・ 指導体制を整 えることが できた。今 後は実践的 な研修の機 会を設け 更なる利 活用を進 めたい。(○) ・メディアリ テラシー 教育、デ バイスの 使用ルー ルにつ いても 改善・充 実が図 られた。 また、端 末がス ムーズ に動く ような 環境が 整備さ れ、使 いやす いシス テムが 構築さ れICT 支援員 (テック スタッ フ)の協 力を得 ながら 教員、 生徒の デバイ スの活 用が一 層広が った。(○)